

○島添 隆雄¹, 家入 一郎¹, 山内 あい子², 荒井 國三³, 上島 悦子⁴, 平田 收正⁴

¹九大院薬, ²徳島大院薬, ³金沢大院薬, ⁴阪大院薬

「教育評価法プログラム」については、長期実務実習におけるポートフォリオとしての実習記録簿の活用と形成的評価に対する14大学の取り組みについてアンケート調査を行い、報告してきた(1)。形成的評価の活用には指導薬剤師から学生への効果的なフィードバックが重要であるが、指導薬剤師のフィードバックの現状は明らかでなく、また、フィードバックのスキル向上の方策も確立されたものはない。そこで、フィードバックが効果的に行われるための参考資料として、指導薬剤師が実際に行ったフィードバックの事例集を作成することを目的に、担当校(徳島大学、金沢大学、九州大学、大阪大学)が実施したアンケート結果を報告する。

平成23年度から平成24年度第1期までに14大学の実務実習を受け入れた397薬局に対してアンケートを配布し、165薬局から回答を得た(回収率42%)。フィードバックが可能と考えていた指導薬剤師は実習生を初めて受け入れる前が61%、平成24年度第1期終了後は82%であった。しかし、実際にフィードバックを行ってみて、79%が難しいと感じ、認定実務実習指導薬剤師養成研修を除いてフィードバックの方法を学んだことがあるのは33%であった。フィードバック事例集については、94%が参考になると回答した。従って、指導薬剤師はフィードバックを実際に行えているが、難しさを感じていることが分かった。しかし、スキル向上については十分な機会がなく、フィードバック事例集といった研修資料の開発の必要性が示唆された。(1) 滝口ら、薬学雑誌 132 (3) ; 365-368, 2012